

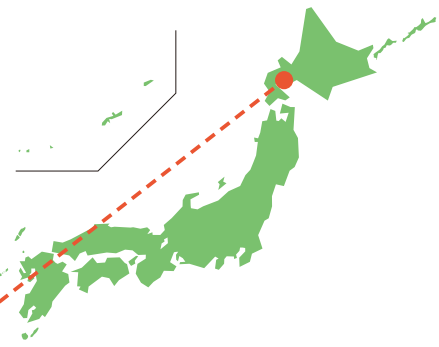
写真で見る

# 都市の変遷

今と昔の風景

地域の発展や変化にあわせて  
移り変わってきたまちの姿。  
今と昔を写真とともに振り返ります。

だて  
伊達市 (北海道)



令和  
4年  
(2022年)



歩道が整備され、瓦屋根で統一した商店街です



企画財政部 企画財政課  
企画調整係  
おおむら ゆめ  
大村優芽さん

## 北限の柿と歴史的な景観が広がる市役所通り

伊達市は、宮城県わたりの巨理町から集団移住によって開拓されたまちで、移住を指揮した巨理伊達家の歴史を取り入れたまち並みが再現されています。「伊達街道 (市役所通り)」では建物が瓦屋根で統一され、街路樹には本市のカントリーサインとして使われている「柿」の木が植えられています。

巨理伊達家が寒さに弱い柿を本州から持ち込むほど、本市は温暖な気候で、秋になると、この「北限の柿」は鮮やかなオレンジ色の実をつけ、通りを彩ります。



平成  
元年  
(1989年)

商店が並び、道路幅が狭くなっています